



# 駒場の丘

【教育目標】  
自ら学び 新しい時代を拓き  
心豊かにたくましく生きる児童の育成

- ・心かよいあう子
- ・まなび合う子
- ・きたえ合う子

第13号 R5.3.16(木)  
文責：長山

## 卒業・進級おめでとう！

この1年も新型コロナウイルス感染症への対応への配慮をしながらの教育活動でしたが、本日修了式を迎えることができました。また、明日は参列者を限定し規模を縮小した形ではありますが、卒業証書授与式を執り行います。本来であれば、地域の皆様をはじめよりたくさんの皆様に、子供たちの成長した姿をご覧いただきたいところでした。残念な思いが多少なりともありますが、ある程度人数を緩和した形でこの日を迎えられたことに感謝の気持ちしかありません。5年生は、式中にVTRで卒業生への思いを伝えます。また、少ない回数ではありますが、練習に参加しました。6年生への感謝の気持ちを表し、お祝いをするとともに、来年度の最高学年として6年生の姿を目に焼き付け、リーダーとしての思いを新たにしたいという意図です。その5年生は、卒業式練習に参加した思いを胸に、修了式にリーダーとして立派に参加しました。



【縦割り遊び・そうじ】

今年を振り返ってみますと、子供たちは大きく成長しました。この1年、全校で大きく力をつけてきたことを2つお伝えします。



【ハピあお交流の一場面】

1つ目です。「誰かのために手を使う」ということです。学習活動や、清掃活動、休み時間を含め日常生活のあらゆる場面で、その姿が多く見られるようになりました。お互いに考えを出し合って学ぶ、困っている友達を手伝う、上級生が下級生のお世話をする、みんなのためになりそうなことを考えて実行する、上級生や友達のよいところを真似るなど、心温まる場面が本当に増えました。全校には折に触れ、これまでより大きな「千小の自慢」として伝えてきました。これからも大切にしていきたいところです。



【児童会 あいさつ運動】

2つ目です。それは、なりたい自分を目指し失敗しながらやってみるということです。授業時間、休み時間、掃除時間、学校生活のあらゆる場面で壁にぶつかりました。その度に「どうすればうまくいくのか」ということを考える姿が見えました。子供たちの振り返り等の作文にも書かれていました。自分なりの思いや考えをもって試してみることで、そこから工夫していくことが、子供たちにとってこれからの大きな力になります。今後も子ども達に寄り添いながら、自分なりに課題を解決していけるよう日々の教育活動をすすめてまいります。

# 感謝の1年

今年も感染症対策へのご理解とご協力に感謝申し上げます。次第に対策を緩和の方向に向かってきた1年ではありましたが、万が一に備え学校をお休みいただくなど、ご面倒をおかけいたしました。皆様のご努力の甲斐もあり、本日まで大きな閉鎖もなく教育活動を実施することができました。ご理解とご協力には感謝申し上げます。1～5年生は明日から、6年生は明後日から休業に入ります。4月の始業には、全員がそろって登校できることを願うばかりです。

地域の皆様には、登下校の見守りや地域学習や校外学習などのご支援をいただきました。事故も無く、安全な登下校をすることができましたのも皆様のお陰です。総合的な学習の時間や生活科と学習



【環境整備へのご支援】

へのご支援によって地域への理解を深めたり、自分たちには何ができるかといった考えも深めたりすることができました。来年度以降も地域の皆様のお力添えをいただきながら、自分たちの町千厩への理解を深めるとともに誇りと愛着がもてるよう学習活動を展開してまいります。今年度のご支援ありがとうございました。



【豆腐作りへのご支援】

# 防災の時間

12年前の3月11日、東日本大震災が発生しました。復興教育の一環として基本的にその日を防災について考える日としています。今年も、3月10日に地震を想定した避難訓練を実施しました。昼休みに大きな地震が発生したという想定でした。放送を聞いて自分で判断し、身の安全を守るための行動をとれるようにすることがねらいです。机等の下に隠れたり、壁やガラスから離れたり、身を低くするなど場所に依りて自分で判断して避難行動をしました。5時間目は、副読本を活用して防災について学習したり、震災当時被災地に勤務していた職員から話を聞いたりしながら、防災への意識を高めました。



学校では計画的に避難訓練を実施していますが、災害はいつ発生するかわかりません。いつ、どこにいても、自分のことを自分で守れるようにしたいと考えています。また、今このようにあたり前に生活できていることに感謝する気持ちを忘れないで欲しいと思います。

# 「菅秀才」って？

いちのせき元気な地域づくり事業「地域史跡保存支援事業」磐清水濁沼地区歴史物語伝承活動として、安楽寺住職の佐藤良規さんから磐清水の史跡の紹介と安楽寺を建立した菅秀才にまつわるお話をしていただきました。この伝承活動は、地元で伝えられている「菅秀才物語」を漫画化して、地域の子供たちに配布して歴史の伝承活動を行い、郷土に誇りをもってもらいたいというものです。短い時間ではありましたが、佐藤住職から、楽しくわかりやすく講話をいただきました。6年生は2学期に総合的な学習の時間「地域の宝」で、安楽寺についての講話をしていただいていたので、さらに知識が深まりました。また、佐藤住職から間もなく完成する漫画「菅秀才物語」の目録を頂戴しました。完成後は、全校児童に配布されます。今から完成が楽しみです。



【住職のお話の一コマ】